

## 1 令和元年度事業報告

### (1) 総務部

- ① 県理事会, 九州理事会, 全国理事会
- ② 研修会
- ③ 常任理事会
- ④ 全国大会(岐阜)
- ⑤ 九州大会宮崎大会

### (2) 研究部

- ① 令和元年度研究の概要
- ② 研究の成果と課題

### (3) 事業部

- ① 令和元年度採択状況報告
- ② 編集作業

## 2 令和元年度会計報告

- ① 県補助金
- ② 特別会計
- ③ 会計監査報告
- ④ 九州大会関係

## 3 令和2年度事業計画

- (1) 総務部
- (2) 研究部
- (3) 事業部
- (4) 令和2年度会計予算案

## 4 その他

# 1 令和元年度事業報告

## (1) 総務部

### ① 県理事会, 九州理事会, 全国理事会

期 日	会 場	実 施 内 容	備 考
1. 6. 7	スクワール麹町(東京都)	全国理事会	会長出会
1. 6. 14	宮崎市立生目台西小学校	第1回宮崎県小社研県理事会	
1. 6. 21	ニューウェルシティ宮崎	令和元年度第1回九州小学校社会科研究協議会理事研修会 情報交換会	顧問・会長・副会長2名・事務局長・他8名出会
1. 7. 31	宮崎大学教育学部附属小学校	第2回宮崎県小社研県理事会	
1. 10. 31 1. 11. 1	都ホテル岐阜長良川 岐阜市立岐阜小学校	第107回全国理事会 第57回全小研岐阜大会	会長出会
1. 11. 28	ニューウェルシティ宮崎	令和元年度第2回九州小学校社会科研究協議会理事研修会・レセプション	顧問・会長・副会長2名・事務局長・他4名出会
1. 11. 29	宮崎市立生目台西小学校	第53回九州小学校社会科研究協議会研究大会 第36回宮崎県小学校教育研究会社会科部会研究大会	
1. 2. 28	宮崎市立生目台西小学校	第3回宮崎県小社研県理事会	

### ② 研修会

期 日	会 場	実 施 内 容	備 考
1. 7. 31	宮崎大学教育学部附属小学校	第50回宮崎県小社研 夏季特別研修会	参加者約100名

### ③ 常任理事会

- 毎月2回程度, 宮崎市立生目台西小学校において実施

### ④ 全国大会 (岐阜大会)

- 令和元年度全国小学校社会科研究協議会研究大会
  - ・ 期 日 令和元年10月31日(木)・11月1日(金)
  - ・ 会 場 岐阜市立岐阜小学校

### ⑤ 九州大会 (宮崎大会)

- 第53回九州小学校社会科研究協議会研究大会
  - ・ 期 日 令和元年11月29日(金)
  - ・ 会 場 宮崎市立生目台西小学校

(2) 研究部

① 令和元年度 研究の概要

宮崎大会 研究主題

自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習  
～思考力・判断力・表現力を育む授業を通して～

I 主題設定の理由

現代社会は、情報過多・国際社会の進展や価値観の多様化など、人々の生活環境がめまぐるしく急速に変化している。また、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により産業構造や雇用環境が急速に変化し、さらには急激な少子高齢化が進行する中で、次世代を切り拓く子どもたち一人一人が、個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことのできる“持続可能な社会の形成者”として、豊かにたくましく成長していくことが期待されている。

このような社会であるからこそ、民主的、平和的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、他の人格を互いに尊重し合うこと、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で問題解決に向けてよりよい方向を考えたり公正に判断したりすることなどの態度や能力が、子どもに身に付いていくようにしなければならない。将来の主権者にふさわしい公民的資質の基礎を育てること、つまり、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てることをめざす社会科の役割は、ますます重要になっていると考える。

新学習指導要領の社会科の目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。」と示されており、小学校社会科において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に沿って明確化し、社会的事象の見方・考え方を、資質・能力全体に関わるものとして位置付ける方向で教科の目標の改善が図られている。

宮崎県の実態を、今年度実施された「みやざき小中学校学習状況調査」の中学校1年生の社会科の結果から見てみると、「複数の資料を関連付けて読み取ること」「学習問題の解決に必要な情報を選択し、その情報を関連付けたり総合したりして説明すること」などが課題として挙げられている。つまり、資料を読み取ることをはじめ、読み取った事実から、考える・判断する・表現するといった社会的な思考力・判断力・表現力を育てていくことが大きな課題となっている。

これまで本県小社研では、平成27年度より、研究主題を「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」、副題を「思考力・判断力・表現力を育む授業の構想」とし、問題解決的な学習を核とした単元構成及び授業構成に関する研究を進めてきた。県内各地区での授業実践や研究発表等を通して、県内の先生方に授業構想の基本的な考え方は少しずつ浸透してきているものの、今回の九州大会において、さらに社会科の授業の在り方について情報発信を行っていきたいと考える。また、次年度から完全実施となる新学習指導要領の趣旨や方向性を考慮し、本県小社研の研究を進めてきている。

そこで、これまでの研究の基本的な考え方は継続しながらも、問題解決的な学習を取り入れた授業実践により重きをおきたいという考えのもと、昨年度より副題を「思考力・判断力・表現力を育む授業を通して」と変更することとした。思考力・判断力・表現力を育む具体的な授業の在り方について研究を進めるとともに、授業実践を積み重ねながら、指導方法の工夫・改善を図ることにより、「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」をめざしたいと考え、本主題及び副題を設定した。

## Ⅱ 主題設定の基本的な考え方

### 1 社会科で育てたい「資質・能力の基礎」とは

#### ○ 生きて働く「知識・技能」の習得

地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

#### ○ 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会の関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

#### ○ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

### 2 自ら学び，考え，社会を拓こうとする子どもとは

#### 【自ら学び，考える子どもとは】

- 学習や生活の中で，社会に見られる課題をつかみ，知識と技能を活用して主体的に考え，表現しながら課題を解決しようとする子ども

#### 【社会を拓こうとする子どもとは】

- 学習したことを生活に生かし，よりよい社会を考え続ける子ども

### 3 思考力・判断力・表現力を育む必要性とは

- 生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ，主体的に学習に取り組む態度を養うことに，特に意を用いなければならない。

(学校教育法30条2項より)

- 公民としての資質・能力の基礎の育成～「思考力・判断力・表現力等」

「社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想する力や，考察したことや構想したことを説明する力，それらを議論する力」の基礎を育成することを求めている。

(新学習指導要領 社会編より)

- 「説明」，「論述」，「解釈」，「判断」，「読み取り」，「表現」といった「言語活動」の手立てを意図的に位置付けた授業展開を行い，「思考力・判断力・表現力」を育成することが大切である。

(宮崎県教育研修センター資料より)

#### 4 思考力・判断力・表現力とは

##### ☆「思考力・判断力」・・・社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力

子どもがもっている知識や資料活用などで得た情報をもとに、「比較」「関連」「総合」などの思考方法を駆使して学習問題を追究・解決するために考える力

##### ☆「表現力」・・・社会的事象について調べたことや考えたことを表現する力

子どもが観察や資料活用などを通して調べたことや考えたことを言語などで表現する力

##### 【子どもの発達段階から（新学習指導要領より）】

- 第3, 4学年… 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考え、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断し、考えたことや選択・判断したことを表現する。
- 第5, 6学年… 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断し、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする。

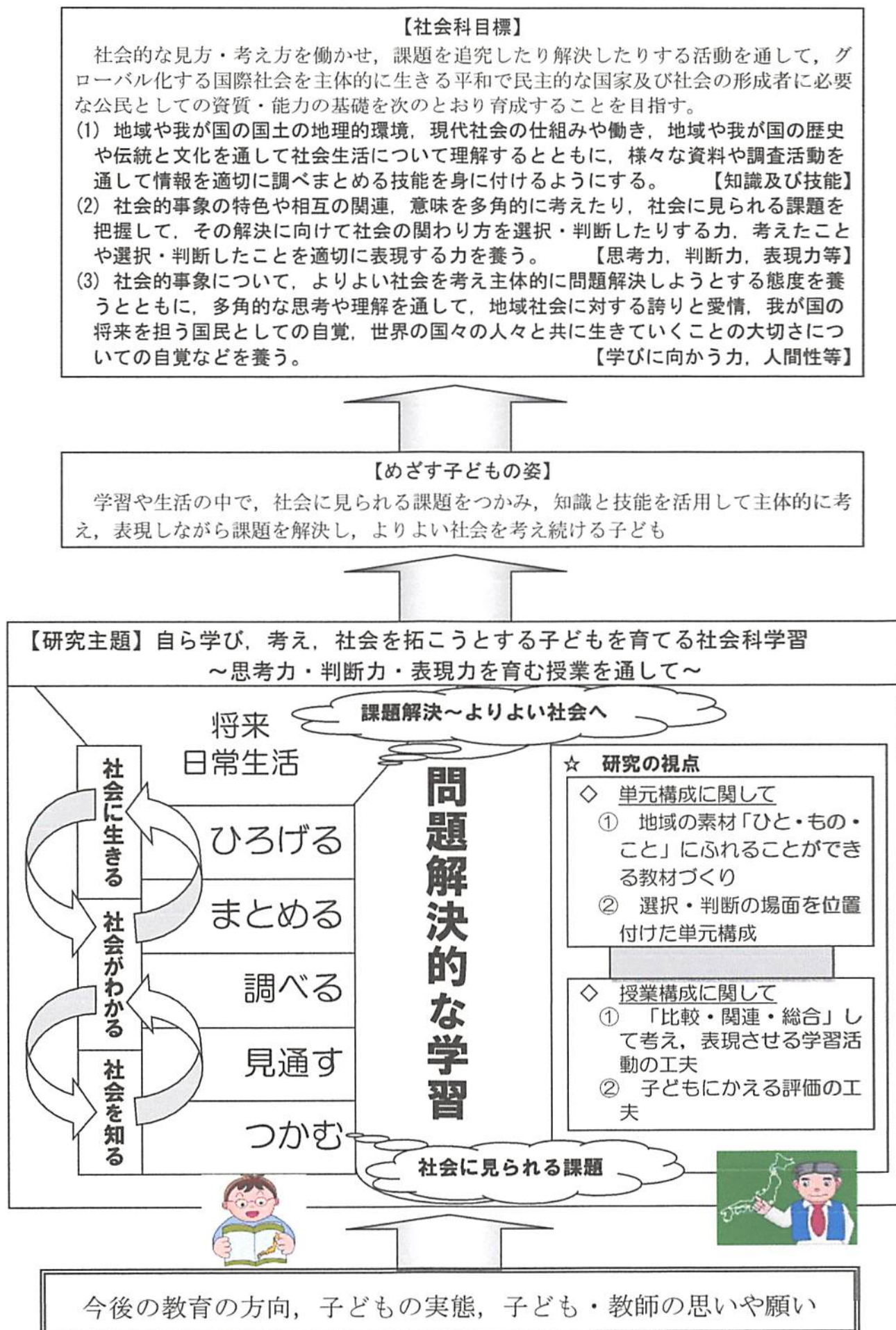
#### 5 小学校社会科で育てる思考力・判断力・表現力とは

	何を	どのように	どんな場面で育てるか
思考力	○ 社会的事象の意味 ○ 社会的事象の特色や相互の関連	○ 比較・分類したり総合したり、関連付けたりして	○ 学習問題や予想、学習計画を考える場面 ○ 調べたことをもとにして社会的事象の意味などを考える場面 など
判断力	○ 社会的事象の価値や課題 ○ よりよい社会の在り方、自分たちの社会への関わり方	○ 多面的、総合的にとらえて公正に	○ 学習したことをもとに、私は何をすればよいか、これから何が大切かなど、自分の考えを決める場面 ○ 学習したことの中から自分たちが協力できることを選び出す場面 など
表現力	○ 調べたことや考えたこと	○ 言語などで ○ 根拠や解釈を示しながら図や文章などで	○ ノート、作品などにまとめる場面 ○ 話し合う、発表する、提案する場面 など

#### 6 小学校社会科における「見方・考え方」（社会的事象の見方・考え方）とは

- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」であると考えられる。  
(新学習指導要領 社会編より)
- 社会的事象やそれを構成する事実を見出すこと（見方）とその事象の意味を解釈すること（考え方）の相互作用によって成り立つものである。
- 比較・関連付け、総合などの思考方法と社会科の内容とを結び付け、社会科における思考力、判断力、表現力の育成を支えるものである。

### Ⅲ 研究の全体構想図



#### IV 新学習指導要領改訂の方向性と研究との関連

### 何ができるようになるか

#### ☆社会科の目標

##### →めざす子どもの姿

学習や生活の中で、社会に見られる課題をつかみ、知識と技能を活用して主体的に考え、表現しながら課題を解決し、よりよい社会を考え続ける子ども

##### →研究主題

自ら学び、考え、社会を拓こうとする子ども

##### →副題

思考力・判断力・表現力

何ができるようになったか（子どもにかえる評価）

### 何を学ぶか

#### ☆社会科の学習内容

##### →社会に見られる課題

地域の素材など

→「社会を知る」「社会がわかる」「社会に生きる」

### どのように学ぶか

#### ☆問題解決的な学習

→「つかむ」「見通す」「調べる」「まとめる」「ひろげる」

→地域の素材「ひと・もの・こと」にふれることができる学習活動

→「比較・関連・総合」して考え、表現させる学習活動

→選択・判断の場面がある学習活動

※ 詳細は、県小社研HPをご覧ください。

## ② 研究の成果と課題 (○…成果 ●…課題)

### 1 研究全体に関して

- 県理事会（6月）や夏季特別研修会（7月）、九州大会宮崎大会（11月）の機会を通して、本県小社研の研究の概要や社会科授業の方向性について示すことができた。また、九州大会の研究発表者へのサポートを行うことができた。
- 宮崎市教研社会科部会の開催日に、九州大会に向けた授業研究会を実施し、九州大会授業者からの授業の概要説明をはじめ、指導案の検討を行ったり、研究内容を基にした授業づくりについて協議したりすることができた。また、夏季特別研修会においても、九州大会における授業や研究発表に関する協議を深めることができた。
- 九州大会に向けて指導助言をいただいた安野先生をはじめ、宮崎大学や県教育委員会といった関係機関との連携を図った研修会を通して、新学習指導要領における社会科授業の在り方や本県小社研の研究を見直したり、深めたりするよい機会となった。
- 次年度から本格実施となる新学習指導要領の考えに基づいた研究内容のさらなる充実を図り、授業実践等を県内の先生方に積極的に情報発信をしていく必要がある。

### 2 研究の視点に関して

- 地域の素材を取り入れた授業の有効性や、「比較・関連・総合」して考え、表現させる学習活動の在り方、選択・判断の場面を位置付けた単元構成の工夫について、基本的な考え方を整理し、九州大会での基調提案や授業提案をしたことにより、県内・九州各県の先生方に社会科授業の方向性を示すことができ、研究の大きな成果を上げることができた。
- 学習活動における「問い」や評価の観点を整理し、その具体例を示したことで、新学習指導要領との関連を理解したり、思考力・判断力・表現力を育むための授業における具体的な手立てを講じたりすることにつながった。
- 社会科で育てていきたい資質・能力である、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に沿った研究の視点についてさらに検討を重ね、研究を深めていく必要がある。また、評価の在り方についても研究を深めていきたい。

### 3 その他

- 副読本に即した県版の評価問題をはじめ、地域の素材を掲載した県版の学習帳や資料集の編集に県小社研が携わっている。ぜひ、評価問題や資料集等の採用を県内の先生方をお願いしたい。
- 本県小社研のホームページを開設し、社会科授業に関する情報を発信しているので、ぜひご覧ください。
- 九州大会を終えた今、研究の基本的な考え方は継続しながらも、よりよい社会科授業の在り方についての研究を、PDCAサイクルの考え方で工夫・改善を図っていく必要がある。
- 今後の県内各地区における県大会及び令和11年度の全国大会宮崎大会を見据え、本県小社研事務局の組織拡大を図るとともに、定期的に授業研究会を実施したり、運営面について県内各地区の小社研との連携をさらに充実させたりしていく必要がある。



(3) 事業部

① 令和元年度採択状況報告

【第4学年県版ワークテスト（文溪堂）】

市・郡名	児童数 (a)	平成30年度 (b)	令和元年度 (c)	伸長率 (c÷b)	浸透率 (c÷a)	備考
宮崎市	3,791	540	567	105.0%	15.0%	
都城市	1,524	1,315	1,425	108.4%	93.5%	
延岡市	1,071	797	888	111.4%	82.9%	
日南市	421	436	414	95.0%	98.3%	
小林市	353	318	362	113.8%	102.5%	
日向市	550	0	110	0.0%	20.0%	
串間市	147	125	139	111.2%	94.6%	
西都市	268	271	206	76.0%	76.9%	
えびの市	149	97	90	92.8%	60.4%	
北諸県郡	315	160	34	21.3%	10.8%	
西諸県郡	75	6	58	966.7%	77.3%	
東諸県郡	235	73	165	226.0%	70.2%	
児湯郡	652	520	550	105.8%	84.4%	
東臼杵郡	236	128	142	110.9%	60.2%	
西臼杵郡	145	46	52	113.0%	35.9%	
合計	9,932	4,832	5,202	107.7%	52.4%	

※ 学校数、児童数については、『宮崎県教職員録2019年度版』を参照。

【第4学年宮崎県版社会科テスト（日本標準）】

市・郡名	児童数 (a)	平成30年度 (b)	令和元年度 (c)	伸長率 (c÷b)	浸透率 (c÷a)	備考
宮崎市	3,791	2430	2,354	96.9%	62.1%	
都城市	1,524	99	108	109.1%	7.1%	
延岡市	1,071	379	218	57.5%	20.4%	
日南市	421	0	20	200.0%	4.8%	
小林市	353	5	0	0.0%	0.0%	
日向市	550	92	24	26.1%	4.4%	
串間市	147	13	2	15.4%	1.4%	
西都市	268	3	0	0.0%	0.0%	
えびの市	149	0	0	0.0%	0.0%	
北諸県郡	315	151	288	190.7%	91.4%	
西諸県郡	75	0	0	0.0%	0.0%	
東諸県郡	235	175	102	58.3%	43.4%	
児湯郡	652	90	104	115.6%	16.0%	
東臼杵郡	236	94	85	90.4%	36.0%	
西臼杵郡	145	93	71	76.3%	49.0%	
合計	9,932	3626	3,376	93.1%	34.0%	

※ 学校数、児童数については、『宮崎県教職員録平成30年度版』を参照。

【第4学年宮崎県版社会科作業帳（日本標準）】

市・郡名	児童数 (a)	平成30年度 (b)	令和元年度 (c)	伸長率 (c÷b)	浸透率 (c÷a)	備 考
宮 崎 市	3,791	1941	1463	75.4%	38.6%	
都 城 市	1,524	398	336	84.4%	22.0%	
延 岡 市	1,071	444	322	72.5%	30.1%	
日 南 市	421	48	124	258.3%	29.5%	
小 林 市	353	178	177	99.4%	50.1%	
日 向 市	550	38	180	473.7%	32.7%	
串 間 市	147	43	31	72.1%	21.1%	
西 都 市	268	143	53	37.1%	19.8%	
えびの市	149	79	75	94.9%	50.3%	
北諸県郡	315	21	26	123.8%	8.3%	
西諸県郡	75	0	0	0.0%	0.0%	
東諸県郡	235	157	153	97.5%	65.1%	
児 湯 郡	652	33	0	0.0%	0.0%	
東臼杵郡	236	95	77	81.1%	32.6%	
西臼杵郡	145	17	66	388.2%	45.5%	
合 計	9,932	3635	3083	84.8%	31.0%	

※ 学校数、児童数については、『宮崎県教職員録平成30年度版』を参照。

【第5・6学年宮崎県版資料集（青葉出版）】

市・郡名	5年生			6年生		
	児童数 (a)	令和元年度 (b)	浸透率 (b÷a)	児童数 (c)	令和元年度 (d)	浸透率 (d÷c)
宮 崎 市	3,953	841	21%	3,693	747	20%
都 城 市	1,593	143	9%	1,564	131	8%
延 岡 市	1,113	118	11%	1,042	26	2%
日 南 市	443	104	23%	441	172	39%
小 林 市	380	71	19%	418	111	27%
日 向 市	614	53	9%	559	139	25%
串 間 市	132	0	0%	158	0	0%
西 都 市	278	0	0%	256	0	0%
えびの市	160	0	0%	133	0	0%
北諸県郡	260	0	0%	298	0	0%
西諸県郡	76	0	0%	66	0	0%
東諸県郡	252	0	0%	212	0	0%
児 湯 郡	625	0	0%	606	0	0%
東臼杵郡	233	0	0%	241	0	0%
西臼杵郡	153	45	29%	150	68	45%
合 計	10,265	1562	15%	9837	1083	11%

※ 学校数、児童数については、『宮崎県教職員録2019年度版』を参照。

【第5・6学年宮崎県版資料集（日本標準）】

市・郡名	5年生			6年生		
	児童数 (a)	令和元年度 (b)	浸透率 (b÷a)	児童数 (c)	令和元年度 (d)	浸透率 (d÷c)
宮崎市	3,768	726	19%	3,949	239	6%
都城市	1,587	539	34%	1,589	423	27%
延岡市	1,127	216	19%	1,113	176	16%
日南市	426	221	52%	433	83	19%
小林市	372	113	30%	372	235	63%
日向市	562	127	23%	605	13	2%
串間市	126	42	33%	128	100	78%
西都市	274	85	31%	280	0	0%
えびの市	145	4	3%	160	23	14%
北諸県郡	287	3	1%	274	85	31%
西諸県郡	67	0	0%	77	47	61%
東諸県郡	228	0	0%	255	0	0%
児湯郡	598	29	5%	625	113	18%
東臼杵郡	233	24	10%	231	28	12%
西臼杵郡	157	89	57%	150	23	15%
合計	9,957	2,218	22%	10,241	1,588	16%

※ 学校数、児童数については、『宮崎県教職員録2019年度版』を参照。

## ② 編集作業

各会社から依頼された副教材について、編集作業にあたった。

### ア 第4学年宮崎県版社会科作業帳（日本標準）の改訂

- 単元配列の検討
- 資料（表やグラフ等の数値）の更新
- 作業内容の検討

### イ 第4学年県版ワークテスト（日本標準）の改訂

- 資料（表やグラフ等の数値）の更新
- 問題文の文章表現等の変更
- 資料（地図、写真）の差し替え

### ウ 第4学年県版ワークテスト（文溪堂）の改訂

- 資料（表やグラフ等の数値）の更新
- 問題文の文章表現等の変更
- 資料（地図、写真）の差し替え

※ 新学習指導要領、新しい教科書を参考に、県の副読本編集委員会と連携を図りながら改訂にあたった。

### エ 第5・6学年宮崎県版社会科資料集（青葉出版）の改訂

- 資料（表やグラフ等の数値）の更新
- 資料（地図、写真）の差し替え

### オ 第5・6学年宮崎県版社会科資料集（日本標準）の改訂

- 資料（表やグラフ等の数値）の更新
- 資料（地図、写真）の差し替え

### カ 小社研のホームページの作成・更新

- 九州小学校社会科研究協議会宮崎大会の案内
- 各種研修会の案内
- 研究内容
- 指導案集・授業実践集など

※ 昨年8月に開設。現在、随時更新中。



【URL】 <https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc046/htdocs/>

## 2 令和元年度会計報告

### ① 令和元年度県補助金会計決算報告

○ 収入 . . . 60,000円

費目	予算額	決算額	備考
繰越金	¥0	¥0	前年度繰越金
県補助金	¥60,000	¥60,000	県補助金(宮崎県小学校教育研究会より)
雑収入	¥0	¥0	預金利息
合計	¥60,000	¥60,000	

○ 支出 . . . 60,000円

費目	予算額	決算額	備考
講師経費	¥10,000	¥30,000	県小社県授業研究会講師謝金(講師)
旅費	¥20,000	¥8,500	夏季特研旅費(発表者)計4名、九州大会研修費(顧問)
食費	¥5,000	¥4,800	弁当代(指導助言者,発表者)計8名
借損料	¥3,000	¥0	附属小にて実施したため
通信費	¥1,500	¥5,410	資料郵送代
消耗品費	¥500	¥1,290	文具費
負担金	¥20,000	¥10,000	全国社会科研究協議会負担金
合計	¥60,000	¥60,000	
摘要欄			翌年度繰越金=0円

### ② 令和元年度特別会計報告

○ 収入 . . . 833,561円

費目	予算額	決算額	備考
繰越金	¥249,722	¥249,722	前年度繰越金
文溪堂より	¥40,000	¥63,703	県版社会科ワークテスト(上刊)
日本標準より	¥80,000	¥223,884	中学年作業帳・資料集・ワークテスト4年上刊
日本標準より	¥50,000	¥52,432	ワークテスト4年下刊
夏季特別研修会	¥30,000	¥21,000	夏季特別研修会参加費益金
宮崎市小社研より	¥24,000	¥24,000	夏季特別研修会参加費
教育公務員弘済会	¥100,000	¥100,000	日本教育公務員弘済会
文溪堂より	¥64,000	¥72,588	県版社会科ワークテスト(下刊)
青葉出版	¥20,000	¥26,230	県資料集
預金利息	¥100	¥2	預金利息
合計	¥657,822	¥833,561	

○ 支出 . . . 448,779円

費目	予算額	決算額	備考
税金負担分	¥80,000	¥86,863	報酬負担金
郵送費	¥15,000	¥4,774	県理事会関係文書
出張旅費	¥150,000	¥99,420	全国理事会・九州理事会・九州大会旅費・参加費
会議費	¥0	¥50,047	県理事会飲み物代 レセプション補助費 講師情報交換費
文具代	¥0	¥0	文具代
書籍代	¥10,000	¥0	書籍
その他	¥10,000	¥7,675	九州理事会、レセプション用飲み物費用
準備費	¥100,000	¥200,000	全国大会プール金
合計	¥285,000	¥448,779	

○ 差引残高 . . . 384,782円

残金は、次年度以降の県常任理事会運営費として繰り越します。

### ③ 会計監査報告

令和2年3月30日に会計監査を受けました。

県小社研 総務部会計 浦本光輝 印

令和元年度県補助金会計及び特別会計の会計監査を行った結果、正確かつ適正に会計処理がなされていることを認めます。

会計監査 宮崎市立高岡小学校

鈴木 重仁 印

会計監査 宮崎大学附属小学校

長谷場由久子 印

④ 令和元年度 九小社研・県小社研宮崎大会会計報告

収入の部

項目	予算	決算	備考
1 各県負担金	105,000	105,000	18000円×7県
2 参加費	295,000	221,000	
3 弘済会研究補助	100,000	100,000	
4 理事会情報交換会残金	0	9,400	第1回理事会5000円、第2回理事会4400円
5 県小社研積立金	400,000	400,000	全国大会、九州大会積立金より
6 宮崎市小学校教育研究会社会科部会運営補助	0	200,000	
7 教材展示費	0	25,000	日本図書、帝国書院、教育出版、東京書籍、日本文教出版
合計	900,000	1,060,400	

支出の部

項目	予算	決算	備考
1 研究費	40,000	2,100	
教材研究費	40,000	2,100	研究授業準備費用
2 印刷費	302,500	192,705	
2次案内印刷代	85,000	109,080	A3カラー2つ折り
研究冊子印刷代	217,500	83,625	研究紀要250円（108625円のうち、25000円は宮崎市から補助）
3 通信費	20,000	21,510	
2次案内郵送料、理事会文書用郵送料等	20,000	21,510	
4 大会運営費	317,000	238,917	
大会関係者弁当代(お茶含む)	17,000	38,000	講師、指導助言者4名、発表者4名、司会者4名
児童送迎バス代	150,000	118,800	事前研：小戸小、加納小ピストン送迎1回 当日：バス2台
全体会会場花代	0	10,000	全体会演台花
ウェルシティー会場費等	100,000	55,912	九州理事会(8月、11月)
会場お茶代等	50,000	18,205	会場、控室等の湯茶代
5 需用費	30,000	25,549	
消耗品費	30,000	8,339	複写リボン代、インク、用紙代、ポット(附属小)
講師対応費	0	10,000	講師送迎等対応費用
講師御礼品	0	1,210	粗品代
情報交換会費用(講師)	0	6,000	第2回理事会情報交換会費
5 予備費	190,500	0	
合計	900,000	480,781	

収支

収入の部－支出の部＝ 1,060,400 － 480,781 ＝ 579,619

尚、残金につきましては、全国大会（宮崎大会）運営費として繰り越します。

### 3 令和2年度 事業計画並びに予算案

#### (1) 総務部

##### ① 理事会, 研修会

- ア 県理事会・・・・・・2月下旬に予定
- イ 研修会・・・・・・「宮崎県小社研夏季特別研修会」は中止  
各地区の研究発表は、後日、県小社研HPに掲載予定
- ウ 常任理事会・・・・・・年6回程度開催予定
- エ 九州理事研修会・・・・6月(紙面), 令和3年2月(紙面)

##### ② 九州大会～第54回九州小学校社会科研究協議会研究大会(福岡大会)

- 大会主題 「よりよい社会を形成していく生き方を創りつづける社会科学習」
- 期 日 令和3年2月5日(金)
- 会 場 校 第1会場 福岡市立警固小学校  
第2会場 福岡市立住吉小中学校  
第3会場 福岡城南小学校  
(※申込者は、会場校に足を運ばないで、自校等から参加)
- 本県発表者 第6学年(日向・東臼杵地区)  
日向市立美々津小学校 教諭 宮下 裕一(紙面発表)

##### ③ 発表ローテーション

- 県大会・九州大会・全国大会

地区名 年度	西臼杵 (13) 延岡(27)	日向(13) 東臼杵 (16)	東児湯 (14) 西都・西米 良(9) 東諸(5)	宮崎(49)	西諸(21)	都城・三 股 (44)	南那珂 (26)	九州大 会発表 学年
2		九・全 6年						6年
3(県)			九・全 5年				県大会	5年
4				九・全 4年				4年
5(県)	県大会				九3年			3年
6						九6年		6年
7(県)		県大会					九5年	5年
8	九4年							4年
9(県)		九3年				県大会		3年
10			九6年					6年

※ 令和11年度・・・宮崎(全国大会・九州大会)

○ 夏季特別研修会

地区名 年度	西臼杵(13) 延岡(27)	日向(13) 東臼杵(16)	東児湯(14) 西都・西米良 (9) 東諸(5)	宮崎 (49)	西諸(21)	都城・三股 (44)	南那珂 (26)
2		6年 (九・全6年)		4年		5年	3年
3 (県)	3年 西		5年東児 (九・全5年)		4年	6年	(県大会)
4	5年 延	6年		4年 (九・全4年)		3年	
5 (県)	延 (県大会)	5年	6年東諸		3年 (九3年)		4年
6		4年	3年西都	5年		6年 (九6年)	
7 (県)	6年 西	県大会		3年		4年	5年 (九5年)
8	4年 延 (九4年)		3年東児	6年	5年		
9 (県)		3年 (九3年)	4年東諸	5年		(県大会)	6年
10	5年 延		6年西都 (九6年)	3年	4年		
備考	5+県	5+県	6	7	4	5+県	4+県

※ 令和11年度・・・宮崎（全国大会・九州大会）



(2) 研究部

① 令和2年度 研究の方向性

ア 研究主題及び副題

「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」  
～思考力・判断力・表現力を育む授業を通して～

イ 研究及び活動計画

- 研究の継続実践と、研究内容・実践の工夫・改善を図る。
- 新学習指導要領に基づく授業の在り方についての協議を行う。
- 県内各地区の小社研と連携し、授業実践を収集する。

② 令和2年度 夏季特別研修会（中止）

※ 各学年の研究発表については、小社研HPに掲載予定

③ 令和2年度 全国大会（九州大会）発表者及び研究発表者へのサポート

ア 全国大会（九州大会）「福岡大会」

- 大会主題 「よりよい社会を形成していく生き方を創りつづける社会科学習」
- 発表者 第6学年（日向・東臼杵地区）  
日向市立美々津小学校 教諭 宮下 裕一（紙面発表）

イ 各学年の研究発表（紙面）

- 発表地区 第3学年（南那珂）  
第4学年（宮崎）  
第5学年（都城・三股）  
第6学年（日向・東臼杵）

### (3) 事業部

- ア 第4学年宮崎県版社会科作業帳（日本標準）の改訂
- 単元配列の検討
  - 資料（表やグラフ等の数値）の更新
  - 作業内容の検討

- イ 第4学年県版ワークテスト（日本標準）の改訂
- 資料（表やグラフ等の数値）の更新
  - 問題文の文章表現等の変更
  - 資料（地図、写真）の差し替え

- ウ 第4学年県版ワークテスト（文溪堂）の改訂
- 資料（表やグラフ等の数値）の更新
  - 問題文の文章表現等の変更
  - 資料（地図、写真）の差し替え

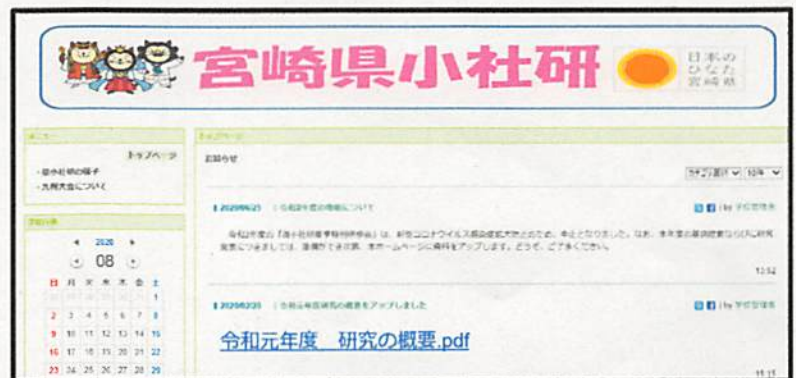
※ 新学習指導要領、新しい教科書を参考に、県の副読本編集委員会と連携を図りながら改訂にあたる。

- エ 第5・6学年宮崎県版社会科資料集（青葉出版）の改訂
- 資料（表やグラフ等の数値）の更新
  - 資料（地図、写真）の差し替え

- オ 第5・6学年宮崎県版社会科資料集（日本標準）の改訂
- 資料（表やグラフ等の数値）の更新
  - 資料（地図、写真）の差し替え

- カ 小社研のホームページの作成・更新
- 研究内容
  - 指導案集・授業実践集など

※ 今年度実施予定だった夏季特別研修会の研究発表について、資料をアップする予定。



【URL】 <https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc046/htdocs/>

(4) 令和2年度会計予算案

① 令和2年度県補助金会計予算案

○収入・・・¥60,000

項目	予算額	備考
繰越金	¥0	前年度繰越金
県補助金	¥60,000	県補助金(宮崎県小学校教育研究会より)
雑収入	¥0	預金利息
合計	¥60,000	

○支出・・・¥60,000

項目	予算額	備考
旅費	¥20,000	九州大会理事会、九州大会旅費
資料費	¥3,000	県理事会資料用紙代
通信運営費	¥10,000	切手代、封筒代
消耗品	¥2,000	会場設営費
負担金	¥25,000	
合計	¥60,000	

② 令和2年度特別会計予算案

○収入・・・¥584,784

項目	予算額	備考
繰越金	¥384,782	前年度繰越金
文溪堂より	¥40,000	宮崎県社会科テスト上刊
日本標準より	¥80,000	宮崎県社会科テスト上刊、宮崎県社会科作業帳4年
文溪堂より	¥40,000	宮崎県社会科テスト下刊
日本標準より	¥40,000	宮崎県社会科テスト下刊
預金利息	¥2	預金利息
合計	¥584,784	

○支出・・・¥440,000

項目	予算額	備考
会議費	¥5,000	常任理事会会議費
研究費	¥20,000	
郵送料	¥15,000	切手・封筒代他
出張旅費	¥100,000	全国理事会、全国大会、九州大会旅費
文具代他	¥10,000	用紙代他
税金負担金	¥90,000	
県大会運営補助費	¥200,000	南那珂大会補助金
その他	¥0	分担金、団体会費
合計	¥440,000	

○差引残高・・・¥144,784

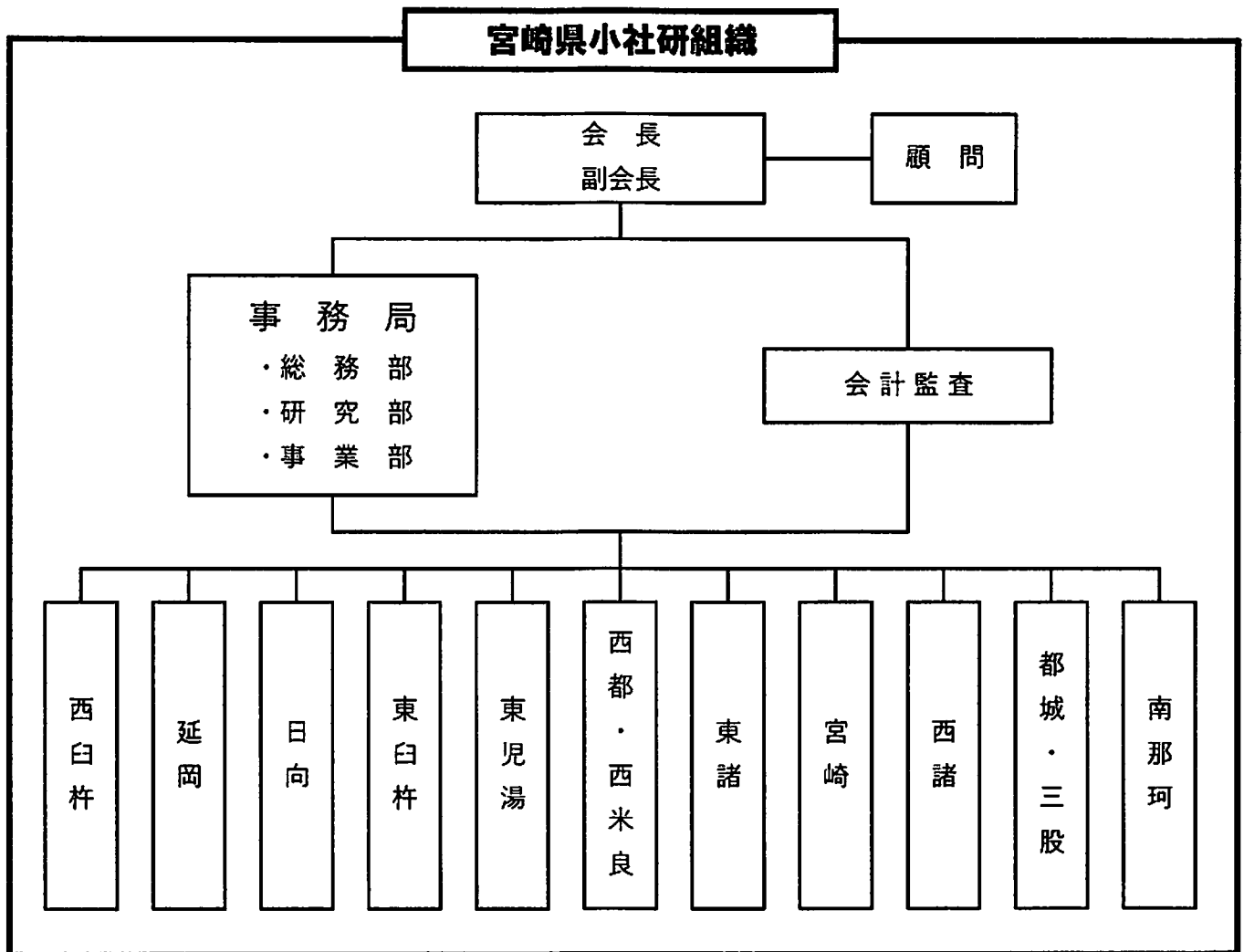
# 宮崎県小社研会則

宮崎県小学校教育研究会社会科部会

- 第1条 本会は、宮崎県小学校教育研究会社会科部会と称し、本会の事務局を原則として会長在任校に置く。
- 第2条 本会は、宮崎県下の各学校に在職する社会科担当、及び広く本会の趣旨に賛同するものをもって組織する。
- 第3条 本会は、社会科教育に関する研究を行って、その向上を図るとともに会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条 本会は、その目的を達成するため、次の活動をする。
- 1 社会科教育に関する共同研究
  - 2 社会科教育に関する講習会、研究会等の開催
  - 3 機関誌、研究成果の資料、その他の発行
  - 4 他の研究団体との連絡調整
- 第5条 本会は、本部役員として、次の役員を置く。  
会長1名、副会長2名、事務局長1名、常任理事若干名、会計監査2名
- 第6条 本会は、県内各地区ごとに支部を置くことができる。
- 第7条 本会は、各地区ごとに理事1名を置き、その地区で選出できる。
- 第8条 本会は、顧問、参与を置くことができる。
- 第9条 会長、副会長、会計監査は、理事会において選出する。  
副会長は、前回県大会関係地区会長と次回県大会関係地区会長が行うことを原則とする。  
事務局長、常任理事は、会長がこれを委嘱する。
- 第10条 本会は原則として理事会を年3回開く。
- 第11条 会長は会を代表し、会務を司る。  
副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは会務を代行する。  
事務局長は、会長、副会長を補佐し、事務処理する。  
会計監査は、年度末に、会計を監査する。
- 第12条 本会の任期は1年とし、ただし、再選は妨げない。
- 第13条 本会の経費は、会費、補助費、その他の事業益金をもってあて、その会計年度は、毎年4月1日に始まり、3月31日をもって終わる。
- 第14条 本会の会則変更は理事会で行う。
- 第15条 本会の会則は、昭和38年11月5日から実施する。

※ 平成18年6月 2日一部改正

※ 平成25年6月14日一部改正



### 事務局業務内容

#### 1 総務部

- 県小社研運営のための連絡調整及び事務の総括担当にあたる。  
(会長、副会長を補佐し、事務を処理する。)
- 地区会長と地区組織、県組織との交流を図る。
- 県小社研運営の会計に関する事務にあたる。

#### 2 研究部

- 県小社研の研究の方向と具体的研究の実践計画を提示し、その成果の交流、まとめにあたる。

#### 3 事業部

- 学習に必要な教材教具の開発及び県内への普及にあたる。
- 県小社研の広報活動を行う。

宮 崎 県 小 社 研 の 歩 み

年度	研究主題	夏季特別研修会		研究大会(県大会)		会長	事務局長	備考 大会地区
		会場	講師	会場	講師			
昭和41	※組織としての主題をもたなかった。	昭和38年11月宮崎市恒久小学校で第1回県小社研大会を開く。(吉村文博・川崎志朗・井上孝先生、ことに川崎志朗先生は献身的に組織作りをされた。)		1 教育会館	研究発表と組織作り	川崎 志朗	井上 孝	宮 崎
42	演題「社会科における指導計画の立て方」			2 教育会館	大野連太郎	川崎 志朗	丸田 義己	宮 崎
43	社会科の本質を求める学習展開の具体的な方法			3 岡富小	宮地 忠雄	川崎 志朗	丸田 義己	延 岡
44	社会科の構造的展開, 社会的見方・考え方			4 小林南小	大野連太郎 里野 清一	川崎 志朗	丸田 義己	西 諸
45	社会科学習指導法の研究	1 えびの高原	里野清一	5 西池小	斉藤 雄三	川崎 志朗	蔵満 保	宮 崎
46	社会科における探究学習の具体化についての諸問題を追求しよう。	2 えびの高原 国民宿舎	里野清一	6 五十市小	阿部 三男	川崎 志朗	蔵満 保	都 城
47	探究学習の指導計画と展開を迫及しよう。	3 青井岳荘	里野清一	7 附属小	里野 清一	川崎 志朗	河野 敏	宮 崎
48	自ら探究する子どもを育てる社会科教育	4 青井岳荘	里野清一	8 油津小	清水 照行	一政 祐英	河野 敏	日南 南那珂
49	同 上	5 潮騒閣	里野清一	9 恒富小	中野 重人	兼松 通	福田 恵一	延 岡
50	同 上	6 潮騒閣	水越敏行	10 富田小	中野 重人	土持 俊雄	福田 恵一	西都児湯
51	同 上	7 えびの高原	荒幡義輔	11 富高小	荒幡 義輔	兼松 通	福田 恵一	日 向
52	同 上	8 えびの高原	大野連太郎	12 飯野小	大野連太郎	土持 俊雄	福田 恵一	西諸県
53	同 上	9 えびの高原	立岡 誠	13 五十市小	立岡 誠	吉村 文博	福田 恵一	都 城
54	人間理解をめざす社会科教育	10 ひまわり荘	斉藤雄三	14 附属小	中野 重人	米倉 春良	福田 恵一	九州大会 宮崎大会
55	同 上	11 みやざき会館	阿部三男	15 油津小	朝倉隆太郎	米倉 春良	福田 恵一	日 南
56	子ども自ら迫及し「社会」がわかる学習指導の研究	12 日向ハイツ	加藤 章	16 岡富小	溝上 泰	米倉 春良	小池 修	延 岡
57	同 上	13 みやざき会館	山根啓作	17 斐南小	谷本 美彦	小八重義清	小池 修	西都児湯
58	同 上	14 日向ハイツ	矢野一弥	18 日知屋小	里野 清一	小八重義清	甲斐 則忠	日 向
59	同 上	15 青島太陽閣	黒木定弥	19 小林小	永井 哲雄	矢野 一弥	甲斐 則忠	西諸県
60	同 上	16 青島太陽閣	里野清一	20 沖水小	矢野 一弥	矢野 一弥	甲斐 則忠	都 北
61	同 上	17 みやざき会館	斉藤雄三	この年より県大会は隔年開催となる。		野崎 勇	甲斐 則忠	
62	人間理解をめざす社会科教育～子ども自ら迫及し「社会」がわかる学習指導の研究	18 みやざき会館	斉藤雄三	21 檜小	中野 重人	野崎 勇	甲斐 則忠	九州大会 宮崎大会
63	同 上	19 ひまわり荘	谷本美彦			久保 嘉文	赤松 國吉	
1	同 上	20 ひまわり荘	高野尚好	22 延岡小	溝上 泰	久保 嘉文	山中 史生	延 岡
2	同 上	21 みやざき会館	山本忠孝			山田 尚敏	東 正剛	
3	同 上	22 紙上発表	甲斐亮典	23 大東小	古川 消行	山田 尚敏	池上 一成	串 間
4	一人一人が楽しく活動し、人間の生き方を考え合う社会科学習	23 厚生年金会館	廣島慶一郎			永迫 弘毅	竹島 一徳	
5	同 上	24 宮崎市中央公民館	北 俊夫	24 本庄小	斉藤 雄三	松田 茂夫	竹島 一徳	東 諸
6	同 上	25 宮崎市中央公民館	日台利夫			野間 重信	久島 孝昭	
7	同 上	26 宮崎市中央公民館	北 俊夫	25 附属小	中野 重人	多田 武利	野邊 宏久	九州大会 宮崎大会
8	同 上	27 宮崎公立大学センター	片上宗二			安藤 徳英	野邊 宏久	
9	同 上	28 宮崎市中央公民館	岩田一彦	26 財光寺南小	加藤 幸次	赤松 國吉	矢野 旨宣	日 向

10	子どもが自ら生活をひらく社会科学習	宮崎公立大学附属センター	兒玉 修			赤松 國吉	矢野 旨宣	
11	同 上	30 宮崎中央公民館	新地辰朗	27 真幸小	兒玉 修	赤松 國吉	上津 等	西 諾
12	同 上	31JA AZM	北 俊夫			宇戸 修	上津 等	
13	同 上	32 南九州短期大学	新富康央	28 油津小	田中 憲治	神川 孝志	上津 等	日 南
14	同 上	33 宮崎中央公民館	北 俊夫			徳山 八朗	黒木 浩司	
15	子どもが自ら生活をひらく社会科学習 ～社会科好きの子どもが育つ学習のデザイン～	34 綾町中央 公民館	溝口和宏	九州大会前年のため 実施せず		田ノ上 哲	森山 聖一	
16	同 上	35 宮崎中央公民館	岩田一彦	29 潮見小	谷川 彰英	田ノ上 哲	森山 聖一	九州大会 宮崎大会
17	同 上	36 宮崎中央公民館	有田和正	30 岡富小	安野 功	那賀 教史	三輪 正憲	延岡三北
18	同 上	37 宮崎中央公民館	安野 功			大倉 隆行	吉弘 哲章	
19	同 上	38 宮崎中央公民館	北 俊夫	31 高鍋東小	深水 洋	大倉 隆行	明石 宏一	東児湯
20	同 上	39 宮崎市民プラザ	兒玉 修			黒木 洋	瀨 真一郎	
21	同 上	40 宮崎中央公民館	北 俊夫	32 高城小	安野 功	黒木 洋	鈴木 重仁	都城三股
22	同 上	41 宮崎県建設 技術センター	安野 功			黒木 洋	鈴木 重仁	
23	自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習	42 宮崎県建設 技術センター	安野 功	九州大会前年のため 実施せず		老岐 英児	鈴木 重仁	
24	同 上	43 宮崎県建設 技術センター	安野 功	33 清武小	澤井 陽介	老岐 英児	鈴木 重仁	九州大会 宮崎大会
25	同 上	44 宮崎中央公民館	安野 功			外村 正人	鈴木 重仁	
26	同 上	45 宮大附属小	梅澤真一	34 妻北小	安野 功	外村 正人	後藤 洋司	西部・西米良
27	同 上	46 宮大附属小	岩本廣美			外村 正人	後藤 洋司	
28	同 上	47 宮崎市立 加納小学校	鈴木健二	35 細野小		外村 正人	郡司美和子	西 諾
29	同 上	48 宮大附属小 宮崎公立大学	鈴木健二			外村 正人	郡司美和子	
30	同 上	49 宮大附属小	授業づくり 研修会	九州大会前年のため 実施せず		井之上健次郎	大川 和子	
31	同 上	50 宮大附属小	授業づくり 研修会	36 生目台西	安野 功	井之上健次郎	大川 和子	九州大会 宮崎大会

夏季特別研修会 歴代発表者校等（平成2年～）

年度	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
平成2年	延岡市立延岡小学校	西都市立穂北小学校	野尻町立紙屋小学校	日向市立日知屋小学校
3年	※ 研修会を実施せず、紙上発表のみ行った。			
4年	宮崎市立宮崎西小学校	えびの市立飯野小学校	日向市立財光寺南小学校	高鍋町立高鍋西小学校
5年	高千穂町立高千穂小学校	西都市立茶臼原小学校	串間市立秋山小学校	延岡市立延岡小学校
6年	宮崎大学附属小学校 宮崎市立西池小学校	宮崎大学附属小学校 宮崎市立国富小学校	宮崎市立小戸小学校 宮崎市立楡小学校	宮崎市立宮崎南小学校 宮崎市立大塚小学校
7年	宮崎市立生目台西小学校	日南市立東郷小学校	三股町立三股小学校	延岡市立延岡小学校
8年	串間市立都井小学校	えびの市立飯野小学校	日向市立富岡小学校	新富町立新田小学校
9年	都城市立川東小学校	日之影町立宮水小学校	清武町立加納小学校	日南市立吾田小学校
10年	延岡市立伊形小学校	西都市立穂北小学校	串間市立大東小学校	小林市立小林小学校
11年	宮崎市立西池小学校	南郷町立潟上小学校	都城市立庄内小学校	日向市立日知屋小学校
12年	串間市立福島小学校	須木村立須木小学校	高千穂町立高千穂小学校	国富町立本庄小学校
13年	山之口町立麓小学校	延岡市立恒富小学校	新富町立富田小学校	日南市立酒谷小学校
14年	日向市立平岩小学校	田野町立田野小学校	串間市立有明小学校	小林市立西小林小学校
15年	宮崎大学附属小学校	西都市立都於郡小学校	都城市立東小学校	日之影町立宮水小学校
16年	串間市立福島小学校	都城市立今町小学校	新富町立新田小学校	高千穂町立上野小学校
17年	高岡町立高岡小学校	えびの市立上江小学校	延岡市立東海東小学校	南郷町立南郷小学校
18年	都城市立明和小学校	日向市立財光寺小学校	宮崎市立大宮小学校	新富町立富田小学校
19年	五ヶ瀬町立鞍岡小学校	串間市立福島小学校	西都市立斐北小学校	綾町立綾小学校
20年	延岡市立西小学校 「農家の仕事のくふう」	宮崎市立本郷小学校 「水はどこから」	小林市立小林小学校 「自動車をつくる工業」	日向市立大王谷小学校 小中一貫教育のよさを生かした社会科学習
21年	高鍋町立高鍋西小学校 高鍋町立高鍋東小学校 「農家の仕事」	国富町立本庄小学校 「古い道具と昔の暮らし」	高千穂町立押方小学校 「これからの食料生産」	日南市立油津小学校 「わたしたちの願いを実現する政治」
22年	宮崎市立西池小学校 「わたしたちのまち みんなのまち」	延岡市立東海小学校 「くらしをささえる水」	門川町立五十鈴小学校 「わたしたちの生活と森林」	都城市立上長飯小学校 「歴史学への興味・関心を高める教材づくり」
23年	小林市立南小学校 「人々の仕事とわたしたちのくらし」	日之影町立宮水小学校 「くらしをささえる水」	日南市立吾田東小学校 「工業生産と貿易」「情報と社会」	西都市立穂北小学校 「歴史への興味・関心を高める教材づくり」
24年	都城市立沖水小学校 「人々の仕事とわたしたちのくらし」	門川町立五十鈴小学校 「住みよい郷土のくらし」	椎葉村立椎葉小学校 「水道業のさかんな静岡県」	延岡市立旭小学校 「世界に歩み出した日本」「わたしたちのくらしと日本国憲法」
25年	串間市立本城小学校 習得・活用・探究を意識した社会科学習の在り方	日向市立東郷学園 社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習	宮崎市立加納小学校 「工業生産と工業地域」	美郷町立美郷南学園 「戦国の世から江戸の世へ」
26年	古小路祐一郎（綾小） 「農家の仕事」における地域農村の教材化と学習活動の工夫を通して	黒木由美（大宮小） 中学年における社会的な見方や考え方の育成	小西直也（高城小） 実感を伴った理解につながる社会科学習の在り方	山之口忍（鞍岡小） 歴史・国史や資料活用能力を高め、考える力をくむ授業の構想
27年	高岡宣喜（緑ヶ丘小） 門田直光（酒谷小）	的場輝行（飯野小） 調査・調査や資料活用能力を高め、考える力を育む授業の構想	鮫島雅朋（門川小） 主体的に学習する態度と思考力・判断力・表現力の育成を通して	永倉泰治（宮大附小） 世界に歩み出した日本と私たちの願いを実現する政治の授業実践を通して
28年	千代反田 聡（三ヶ所小） 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習	尾崎 智子（学園木花台小） 【思考力・判断力・表現力】を育成するための学習指導の在り方	原田 味津江（多賀小） 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習	深田 陽一郎（加納小） 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習
29年	長崎 雄史（細野小） 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習	大牟田 孝夫（祝吉小） 社会的現象の特色や相互の関連について考える力を育てる社会科学習の在り方	飯干 加代子（東小） 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習	金丸 鉦徳（細田小） 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習
30年	加塩 勉（細野小） 「社会がわかる」を目指す社会科学習の構想	福山 聡恵（木脇小） 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習	長友 寿貴（高千穂小） 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習	寺村 智代（多賀小） 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習
R1年	吉元 美紗（南方小） 子どもが主体的に学ぶ第3学年社会科学習指導の在り方	手嶋 徳子（都於郡小） 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習	久場 智裕（都城東小） 社会的現象の意味を比較・関連・総合的な観点から考え、学習問題に対する答えを自ら表現できる児童の	甲斐 啓介（細野小） 自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習